

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名： 仙台市交通政策推進協議会

評価対象事業名： 地域公共交通利便増進事業(利便増進計画推進事業)

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
<p>仙台都心循環線ポスター、チラシ等の作成 「仙台都心循環線ポスターおよびチラシ」を作成。 市内全ての小学校・児童館・幼稚園・保育所等に仙台都心循環線ポスターを約400枚、チラシを約40,000枚配布。</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。</p>	<p>仙台都心循環線の利用促進につなげるため、広報等による支援を継続して検討・実施。</p>
<p>施策実施状況調査の実施 R5.3に策定した「仙台市地域公共交通利便増進実施計画」に位置付け、実施している八木山ラインのダイヤ調整及び仙台都心循環線の状況調査並びに利用者数等の分析を行う。また、利用者を対象とした利便性向上、利用頻度に関するアンケート調査を実施し、施策実施による効果の分析を実施する。</p> <p>【今後予定している内容】 路線バス利用者へのアンケート調査の集計・分析</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。</p>	<p>引き続き、八木山ライン・仙台都心循環線の利用状況等について把握していく。</p>
<p>モビリティマネジメント 八木山小学校の児童と保護者を対象として、10月にバス乗車体験を実施。33名の参加者に対して、バスに対する意識変容を目的とし、バスの乗り方や降り方等の体験を行った。</p> <p>【今後予定している内容】 統合バスマップ、仙台駅乗り継ぎガイド作成</p>	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)。</p>	<p>モビリティマネジメントによる意識変容を定着させるためのフォローアップを継続して実施。</p>

地域の概要

1. 基礎データ

仙台市
人口：1,061,450人
(R6.4.1現在・住民基本台帳)
面積：786.35 平方キロメートル
過疎地域等指定：山村(旧秋保村、旧広瀬村、旧大沢村、旧根白石村)
高齢化率：25.20%(R6.4.1)
協議会開催数：3回、公共交通ワーキング開催数：7回
(R6.4 ~ R6.12)

2. 公共交通の概況(R6.4.1)

【乗合バス】

路線バス
運行：仙台市交通局、宮城交通(株)、愛子観光バス(株)、(株)タケヤ交通
路線：90路線

【鉄道】

運行：東日本旅客鉄道(株)
路線：4路線

【地下鉄】

運行：仙台市交通局
路線：2路線

【タクシー】

運行：タクシー事業者47社
エリア：仙台地区
【乗合タクシー】
運行：(有)高砂タクシー、KM仙台タクシー(株)、(有)秋保交通、相互タクシー(株)

エリア：宮城野区燕沢地区、太白区坪沼地区、秋保地区、生出地区、青葉区新川地区

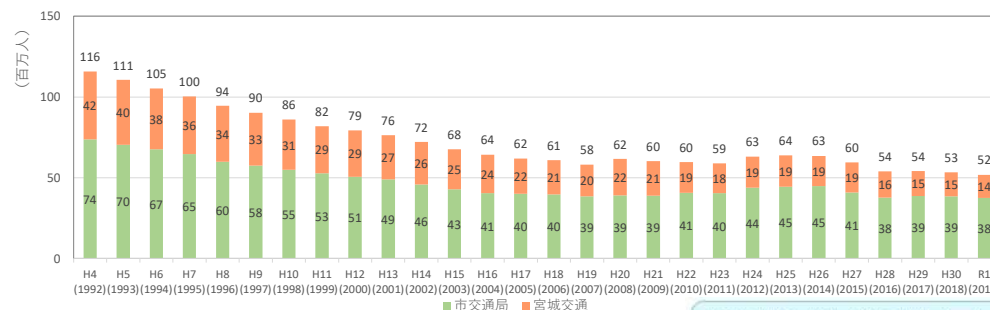
【フェリー】

運行：太平洋フェリー(株)
路線：2路線

バス事業においては、長期にわたる乗車人員の減少傾向から厳しい経営状況が続いているが、公共交通を中心とした交通体系は、都市の基盤として、広域的な交流・連携や、通勤・通学・通院などの日常生活における移動を支え続ける必要があり、公共交通機関の安定運行や地域主体の移動手段の確保等に向けて、安定的・効率的な公共交通体系の構築が喫緊の課題である。

3. 公共交通の問題点

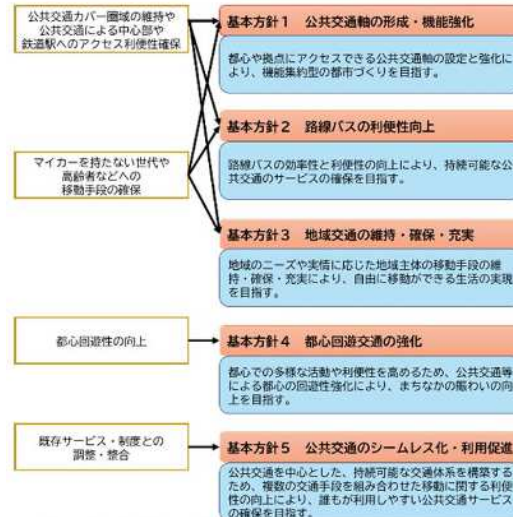
- ① 人口は近い将来にピークを迎えた後、緩やかに減少し、高齢化が今後も進む見込みであり、人口減少に伴う公共交通の利用者の減少・高齢化による移動制約者の増加が懸念される。
- ② 鉄道利用は増加傾向にあるが、路線バスは長期間の乗車人員の減少傾向から経営状況が厳しい。
- ③ バスの分担率は4%程度だが、鉄道・地下鉄沿線から外れた地域ではバスの分担率が比較的高い。
- ④ 大型二種免許保有者の減少により、バス運転手の確保が困難さを増すことに加え、バス車載機やバス営業所建物等、施設設備の更新に多額の費用が必要となる。
- ⑤ 都心部では歩行者が仙台駅周辺に集中し、都心内での回遊性が低くなっており、公共交通等による都心の回遊性強化が求められる。



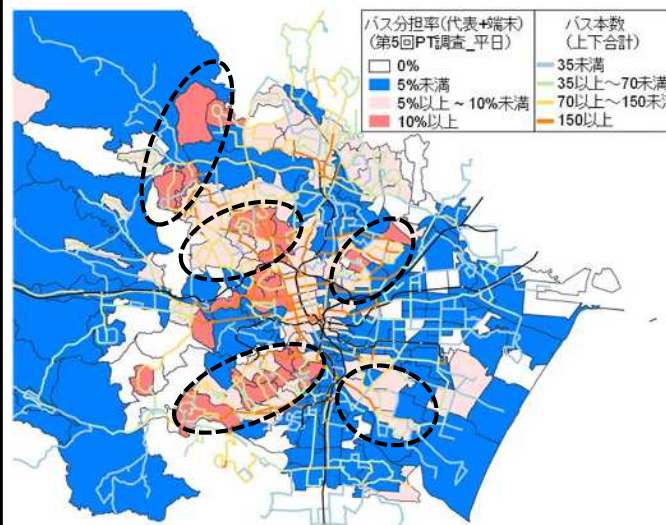
【バス乗車人員の推移】

市民との協働により、地域の実情に合った、誰もが利用しやすい質の高い公共交通を持続的に確保し、自由に移動ができる生活の実現とまちなかの賑わい向上をめざします。

【課題】



【公共交通に関する目標と基本方針】



【地域別バス分担率(平日・代表+端末)(2015)】

事業内容

【事業評価時点で完了している内容】

1. 仙台都心循環線ポスター、チラシ等の作成
2. 施策実施状況調査の実施
 - (1)八木山ラインにおけるダイヤ調整による取組効果検証
 - (2)仙台都心循環線新設による取組効果検証
3. モビリティマネジメント
 - (1)バス乗車体験

【今後予定している内容】

2. 施策実施状況調査の実施
 - (1)および(2)路線バス利用者へのアンケート調査の集計・分析
3. モビリティマネジメント
 - (2)統合バスマップ作成
 - (3)仙台駅乗り継ぎガイド作成

今後の取組みについて

【スケジュール(予定)】

2. 施策実施状況調査の実施
 - 12月 アンケート集計・分析
 - 1～3月 調査とりまとめ
3. モビリティマネジメント
 - 12～3月 統合バスマップ作成、仙台駅乗り継ぎガイド作成

【今後の動き】

施策実施状況調査を行った上で、沿線住民や来訪者への利用促進につなげるための効果的な周知広報を実施していく。

事業実施概要

1. 仙台都心循環線ポスター、チラシ等の作成

「仙台都心循環線ポスターおよびチラシ」を作成。

市内全ての小学校・児童館・幼稚園・保育所等に仙台都心循環線ポスターを約400枚、チラシを約40,000枚配布。



ポスター



チラシ



2. 施策実施状況調査の実施

R5.3に策定した「仙台市地域公共交通利便増進実施計画」に位置付け、実施している八木山ラインのダイヤ調整及び仙台都心循環線の状況調査並びに利用者数等の分析を行う。また、利用者を対象とした利便性向上、利用頻度に関するアンケート調査を実施し、施策実施による効果の分析を実施する。

3. モビリティマネジメント

八木山ラインでの取り組みの周辺小学校となる八木山小学校の児童と保護者を対象としたバス乗車体験を10月に実施。バスに対する意識変容を目的とし、バスの乗り方や降り方等の体験を行った。



全体説明



乗り方体験



降り方体験